

# 薬剤部から皆さまへ

## 「お薬手帳」の重要性について



ようやく春めいてきて木々の芽もふくらみ始めました。いかがお過ごしでしょうか。当院は地域の方々のお力添のおかげで、3月16日に開院1周年を迎えることができました。今後も皆様と一緒により良い病院に成長していけるよう取り組んでまいります。

2021年3月11日で、東日本大震災の発生から10年という節目の年になりました。この災害の悲しみは忘れてはなりません。同じ悲しみが繰り返されないように、私たちはこの災害を糧に、災害に対する備えをする必要があります。災害など緊急時の備えとして、食糧や飲料水など日用品の備蓄は浸透しつつありますが、「医薬品」の備蓄はいかがでしょうか？糖尿病・気管支喘息・高血圧など、慢性疾患で毎日お薬を服用している方はお薬の備えも必要です。東日本大震災を振り返りながら、「災害と薬」について考えてみましょう。

東日本大震災では医療機関も被災して診療が行えず、さらには診療録（カルテ）など多くの情報も失われました。避難所では、常用薬がわからない方へ迅速にお薬をお渡しすることはできませんでした。特に糖尿病をはじめとする慢性疾患でお薬を服用している方は、迅速に薬を服用しないと命の危険が伴うといっても過言ではありません。

それでは、災害時にはどのような備えが必要でしょうか。1週間分程度の常用薬を手元に残しておくことが大切といわれていますが、災害時に持ち出すことは困難かもしれません。そこで、一番おすすめしたいものは「お薬手帳」です。

皆さん、お薬手帳はお持ちですか？お薬手帳は、薬の情報源として重要なツールです。また、災害時において薬の情報を得るためにもっとも有効なツールです。お持ちでない方は、ぜひご活用していただきたいと思います。スマートフォンのお薬手帳アプリもありますので、生活スタイルに合わせて活用してみてください。しかしながら、災害時にはお薬手帳を迅速に持ち出すことが困難な場合もあるでしょう。あらかじめ手帳のコピーを親戚に預けておいたり、財布など身の回り品にコピーを入れておいたり、携帯電話で手帳の内容を写真撮影し保存しておいたりするなど、複数の場所に保管することをおすすめいたします。

災害時以外にも、お薬手帳を持っていることで併用薬・アレルギー・副作用情報などを医師や薬剤師などが確認することができます。日常的にも安全安心にお薬を服用するためにも、ぜひお薬手帳を有効活用していただけると幸いです。

お薬手帳は無償で配布しておりますので、ご希望の方は薬局でお気軽にお声がけください。先が見えないコロナ禍ですが、皆様どうぞ健康に気をつけてお過ごしください。



あなたの大切な情報

氏名 \_\_\_\_\_ 男・女 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 年齢 \_\_\_\_\_歳

連絡先住所 〒 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

血液型 (A・AB・B・O型) \_\_\_\_\_

アレルギー歴 (有・無) \_\_\_\_\_

副作用歴 (有・無) \_\_\_\_\_

主な既往歴

- アレルギー性疾患
- 肝疾患
- 心疾患
- 腎疾患
- 消化器疾患
- その他

※詳細は医師、歯科医師、薬剤師に記入してもらってください。

